

## 平成 26 年度カムイワッカ地区自動車利用適正化対策 現地管理連絡調整等業務 報告書(概要版)

公益財団法人 知床財団

平成 11 年度以降カムイワッカ地区では、自然環境の保全と快適な利用環境の確保を目的とした車両規制が継続して行われている。本業務は、車両規制期間における現地連絡調整業務、自由利用期間における混雑状況の把握等を通じ、自動車利用適正化対策を円滑に実施することを目的として実施した。

### 1.カムイワッカ地区に関わる全体日程

車両規制及びカムイワッカ地区の利用に関する全体日程を図 1 に示す。期間中には来年度を見すえた運用試験を 2 つの期間に分け実施した。

	6月	7月	8月	9月	10月	
全体日程	6/5	8/1	8/25	9/13	9/22	
	自由利用期		車両規制期	自由利用期	車両規制期	自由利用期
	6/21	道路特例使用		9/23		
カムイワッカ地区監視員配置		7/19	8/18	8/26	9/28	
知床自然センター警備員配置			8/9~16	9/13・14	9/20~22	
知床五湖警備員配置			8/1	8/25	9/13	9/22
カムイワッカ地区での試験		7/28~31	8/19~25			
		車両誘導試験(仮橋閉鎖)	監視員ゼロ人体制試験			

図 1 車両規制及びカムイワッカ地区の利用に関する全体日程

#### 1) 現地人員体制の変更

昨年は、車両規制期間中に常時 1 名以上の監視員が配置されたが、本年は期間が区切られ、未配置の期間も発生した。硫黄山登山者の道路特例使用に伴う管理員の配置は廃止された。

#### 2) 車両通行規制区間の規制許可権者の変更

道道知床公園線(知床五湖～カムイワッカ間)の車両規制に関し、許可権者が北海道公安委員会から斜里警察署長となった。

#### 3) 車両規制期間中における知床自然センターの駐車場警備員配置期間の変更

未配置の日数が昨年の 17 日間から 22 日間と拡大した。

#### 4) 残雪による供用開始時期の変更

本年度道道知床公園線(知床五湖～カムイワッカ間)供用開始は残雪の影響により 6 月 5 日(昨年度は 7 月 1 日)となった。また、硫黄山登山における道路特例使用期間は 6 月 21 日～9 月 23 日となった。

## 2.現地状況の把握

対象の期間は、本業務の委託期間である7月10日～10月10日とした。特に、監視員が配置され、現地状況を正確に把握できた期間を中心に取り扱い、その他の時期については可能な限り状況把握を行った。

### 2-1 車両規制期における混雑・トラブル発生状況について

- 1) 一時的に湯の沢内の利用者が多くなることはあっても、入浴待ちが発生するという状況は発生していない。また、混雑によるシャトルバスの乗車不可や臨時便の増発はなかった。
- 2) 負傷者の発生件数は、1件で、転倒による切り傷であった。
- 3) 車両規制期間中、シャトルバス最終便への乗り遅れが少なくとも4件発生している。
- 4) 8月19日～8月25日の間、来年度以降の利用の在り方を検討するため、現地に人員を配置しない状態でも円滑な運用が可能かを検証した。湯の沢の利用において混乱、トラブル等は発生しなかった。

### 2-2 自由利用期における混雑・トラブル発生状況について

- 1) 7月19日昼頃～7月20日夕方頃までほぼ満車の状態が継続的に発生した。8月27日の11時頃にも一時的な渋滞が発生した。
- 2) 道道知床公園線(知床五湖～カムイワッカ間)での交通事故は6件発生している。5件は物損事故、1件は同乗者の軽微な怪我による人身事故として警察へ報告されたものである。事故の要因の多くは不慣れな未舗装道路運転によるものであった。
- 3) 7月28日～7月31日の間、来年度以降撤去となる仮橋をロープで封鎖し、車両の駐車や旋回等に支障がないかを検証する試験を実施した。駐車場及び湯の沢の利用において混乱、トラブル等は発生しなかった。

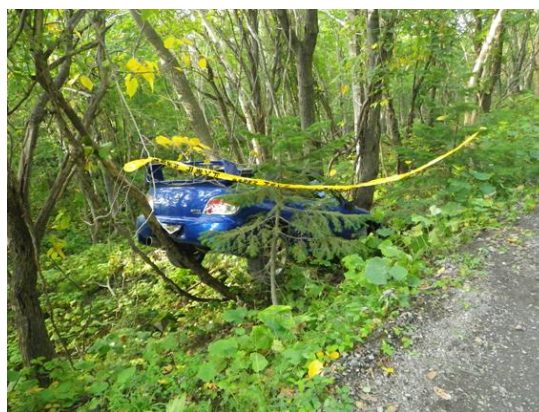


写真1 路外に転落した自動車(9月23日)

### 2-3 全期間を通したトラブル等

- 1) 一の滝上部の利用禁止区間について  
規制ラインを突破した利用者は、確認されただけでも16人(昨年度は51人)であった。
- 2) 大雨・増水時の対応について

増水による閉鎖は2回発生した(昨年度2回)。8月5日の13時頃から14時まで沢への立ち入りを禁止した。8月11日には大雨により終日閉鎖となり、シャトルバスも知床五湖以奥が終日運休となった。

3) カムイワッカ地区およびその周辺におけるヒグマの出没状況について

6月5日～10月10日までのカムイワッカ地区及びその周辺におけるヒグマ目撃件数を**表1**に示す。カムイワッカ地区での目撃は0件で、過去4年間と比べ大幅に減少した。道路上からの目撃は、31件と昨年度の19件と比べると増加している。

**表1 カムイワッカ周辺におけるエリア別ヒグマの出没件数**

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
カムイワッカ地区	20	16	22	4	0
道道知床公園線沿い	14	67	60	19	31
硫黄山登山道	0	28	10	0	3
計	34	111	92	23	34

4) 硫黄山登山における遭難事故対応について

硫黄山登山者(知床連山縦走含む)の遭難による警察等への救助要請が5件発生した(**表2**)。内3件に関し、当財団が連絡調整や救助補助対応等を行った。

表2 硫黄山登山で発生した遭難事故

日付	遭難時の天候(知床五湖周辺)	遭難者	行動予定	第一報	概要	結果	知床財団対応
8月3日	晴れ	男性60代単独	知床連山縦走(岩尾別入山～硫黄山下山)	山中で別れた仲間4名が警察へ連絡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5名パーティのうち2名が疲弊し、動けなくなる。疲弊した2名は新噴火口でビバーク(テント等あり)、残り3名は下山。</li> <li>・下山したうち1名(リーダー、のち遭難)はビバークサポートのため知床五湖で水を調達するも、カムイワッカ行きのシャトルバスに乗り遅れる。他2名はウトロで待機。</li> <li>・五湖FHIに相談し、知床財団職員がリーダーをカムイワッカまで送迎。リーダーは17:00頃、新噴火口へ向け登山を開始。</li> <li>・上記と入れ違いに、ビバーク予定だった2名が自力下山し、シャトルバスで知床自然センターまで戻る。</li> <li>・結果として、リーダーが装備なしの状態で山中に取り残される。</li> <li>・20:00頃、下山した仲間4名が警察に救助要請。警察から知床財団へ連絡が入り状況を伝達。</li> <li>・遭難者は下山してきている可能性がある為、警察と知床財団職員がカムイワッカ地区へ向かう。</li> </ul>	同日21:30頃カムイワッカ湯の沢のトイレでビバークしていたところを警察、知床財団職員が確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー(のち遭難者)をカムイワッカ地区まで送迎</li> <li>・遭難者救助</li> </ul>
8月8-9日	強雨	チェコ人2名	知床連山縦走(岩尾別入山～硫黄山下山)	監視員から五湖FHIへ無線連絡 「縦走中の友人2名を迎えに来たのだが、下山してこない」と途中まで一緒に登山をしていた友人2名が監視員へ相談し発覚	8日、硫黄山山頂周辺で道に迷い(ウブシノツタ沢)遭難	9日、自力で正規ルートまで登り返し、下山中に捜索隊と合流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一報を受け、斜里町へ連絡</li> <li>・友人2名の警察による事情聴取の際の通訳</li> </ul>
8月15日	濃霧のち曇り	男性60代単独	知床連山縦走(前日は第一火口キャンプ地に幕営したと思われる)	第一発見者が携帯電話で警察へ通報	午前7時過ぎに硫黄山山頂直下で滑落	心肺停止	-
8月17-24日	晴れ	男性40代単独	知床連山日帰り縦走(岩尾別入山～硫黄山下山)	知床財団が警察へ通報 「17日返却予定で貸し出したクマよけスプレーが20日になっても返却されていない」	17日、硫黄山山頂周辺で道に迷い(ウブシノツタ沢)遭難。途中、滑落し胸と足を負傷。22日まで同所でビバーク。23日よりルート外を下山。	24日、ウブシノツタ川左岸知床林道(硫黄山橋から約700mの地点)の落石防護柵上まで降りたところを、ヒグマ調査中の知床財団職員が救助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一報通報</li> <li>・遭難者救助</li> <li>・救急車合流地点(道道知床公園線、知床五湖～カムイワッカ分岐地点)まで搬送</li> </ul>
9月13-16日	曇り時々雨	男性2名(20代、30代)	知床連山縦走(岩尾別入山～硫黄山下山)	職場の同僚が警察へ通報	13日から1泊2日の行程で登山届を提出。	16日、硫黄山付近の沢で2人を発見し、道警へ呼び寄せ	-

### 3.車両規制に関する業務と利用状況の把握

#### 3-1 シャトルバス乗車人数の把握について

全体を通じた、本年度のシャトルバス乗車人数は12,382人(昨年度は13,203人)であった。日毎のシャトルバス乗車人数の推移と過年度との比較を図2に示す。8月14日に日最大となる1,039人を記録した。9月は14日と21日に利用が集中した。平均値をみると、8月は412人(昨年度は449人)に対し、9月は207人(昨年度は198人)となった。こうした傾向は過去2年間とほぼ同じ傾向と考えられる。また、過去3年間のシャトルバス乗車人数の内、自然センター～知床五湖往復の乗車人数が占める割合を比較したのが図3である。年々増加しており、知床五湖の駐車場渋滞を回避するためのシャトルバス利用が浸透しつつあると考えられる。

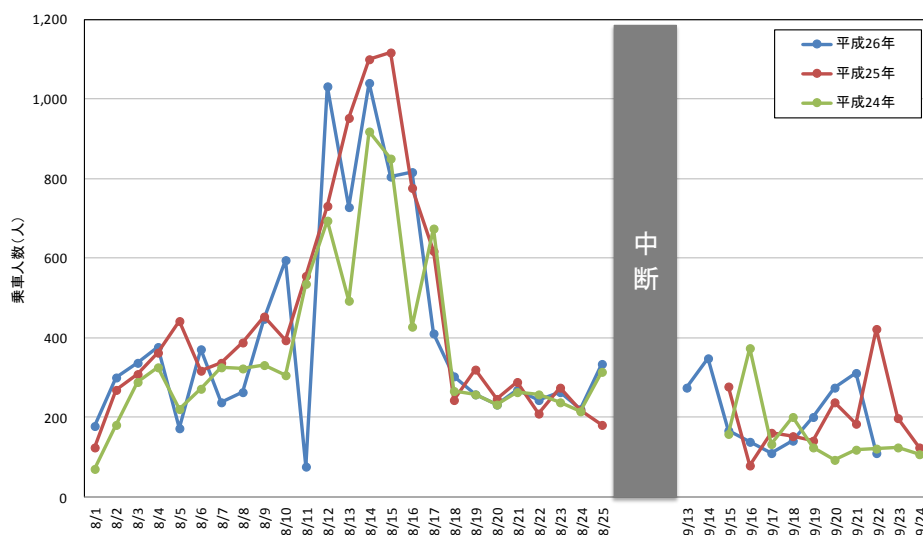


図4 シャトルバス乗車人数の日別推移と過年度比較

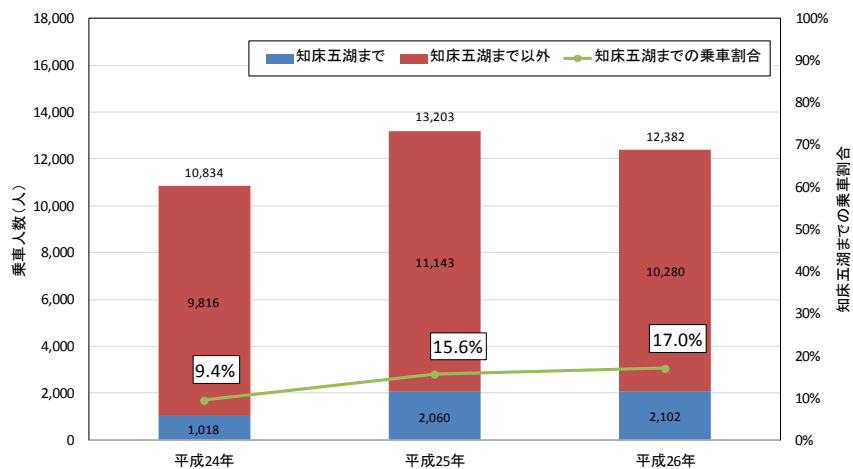


図3 知床五湖までのシャトルバス乗車人数の過年度比較

### 3-2 各駐車場における最大渋滞距離について

車両規制期間中の警備員が配置された期間における、各駐車場の日毎の最大渋滞距離を図4に示す。知床五湖では期間中、ほぼ毎日満車状態が発生し、8月12日に最大で700mの渋滞となった。知床自然センター駐車場では渋滞は発生しなかったが、お盆期間中は予備駐車場を開放した状態ではほぼ満車状態が続いた。

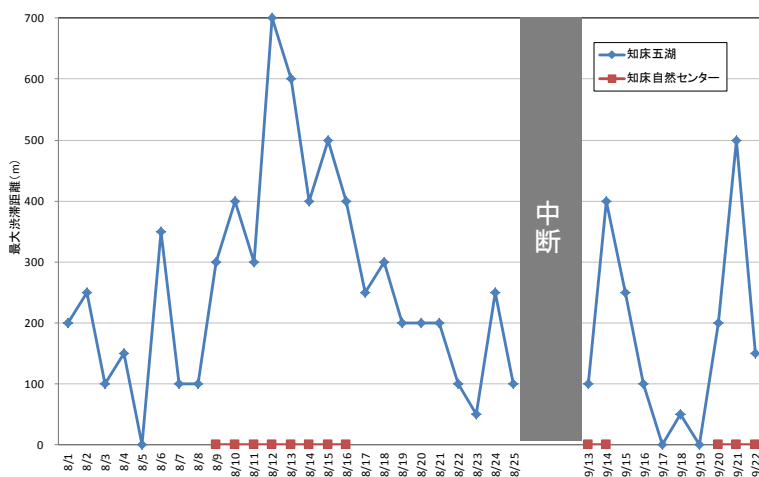


図4 各駐車場の累計満車時間の日別推移

### 3-5 シャトルバス乗車人数と駐車台数との関係について

継続して車両規制が実施されており、過年度と直接比較可能な8月10日～8月16日におけるシャトルバス乗車人数と各駐車場の駐車台数の年推移を図5に示す。平成23年度から回復傾向であったが、本年度は昨年度と比較して、シャトルバス乗車人数は84%、知床自然センター駐車台数は94%、知床五湖駐車場は92%といずれも1割程度の減少となった。

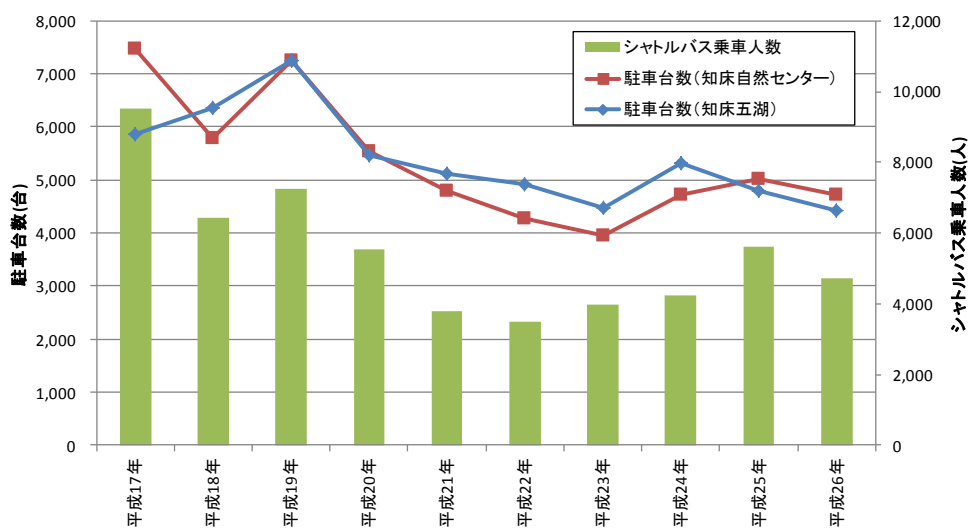


図5 同一期間(8月10日～8月16日)で比較した各駐車場の利用台数の推移